

ふるさとふちゅう

【第25回】府中町で体験、四国お遍路（10）
道隆寺（8）江戸時代の賑わい

道隆寺では現在も毎月8日の大念珠繰りを行う本尊供、21日の護摩祈祷などの御影供の他、多くの行事が行われています。江戸時代には府中村だけでなく近村や広島城下を巻き込む行事が行われました。6世紀に仏教が伝来し、日本古来の神々も新来の仏も同じであるという神仏習合という考えが定着します。明治元（1868）年に神仏分離令が出されるまで、神職も僧も同じように神事・仏事に携わりました。江戸時代の府中村には現多家神社はまだ無く、村の中央部を流れる榎川をはさんで北の惣社と南の松崎八幡社がそれぞれ氏神として信仰されていました。道隆寺の住職は、この総社と松崎八幡社の両方の大祭に出仕しています。長く惣社の神職を務めていた大吞家には惣社に関する古文書が伝えられています。こ

の中の「大吞家諸願書付控」（安芸府中町史第二巻）に文政8（1825）年に道隆寺の大鐘を鑄替えた記事があります。「道隆寺は広島藩が普請する寺院であるが、この度、上人が自力で鑄替えたいと願いあげ、免許を請けて3月15日に海田市の金屋が道隆寺上の赤羽祢新四国八十八ヶ所三番石仏の前で鑄作った」と記されています。上人とは、新四国八十八ヶ所を整備した11世智空上人の事で、文政11年に72歳で亡くなった人物です。さらに3月21日に「御城下は不及申近村諸人おびただしく参詣これあり、にぎにぎしきことに有之候」と記されています。広島城下を含め、近から多くの参詣者が集まったのです。なお、この時の大鐘は失われ、昭和30年に現在の釣鐘は完成しました。

同じ大吞家文書に、天保9（1838）年に道隆寺本尊薬師如来の御開帳が3月17日から4月8日まで行われたことが記されています。例年なら道隆寺以外で開帳する外開帳（出開帳）があるが、今年は無く、参詣者が多かったとあります。さらに「酒肴其外煎売・茶店等多ク芝居も十日斗り有賑々鋪事也」と記されています。飲食物の屋台のほか、芝居小屋が掛けられた賑やかな行事だったのです。



現在の釣鐘、昭和30年に鑄造された

府中町文化財保護審議会委員
菅 信博

健康に役立つ情報を紹介

朝パッ君の 耳より情報

1月1日～2月28日 はたちの献血キャンペーン
～きっと誰かが、だったら私がはたちの献血～

1月1日～2月28日までの2か月間にわたり、「はたちの献血キャンペーン」が展開されます。このキャンペーンは、献血者が減少しがちな冬季に安全な輸液用血液製剤を安定的に確保するため、「はたち」の若者を中心に、広く献血に関する理解と協力を呼びかけるものです。血液は長期保存ができず、人工的に造ることもできないため、1年を通じて継続的な献血へのご協力をお願いしています。少子化により献血が可能な人口が減少している中、特に10代～30代の献血者が減少しています。そのため、若い世代の方々のご協力が重要です。

献血血液の約半分は輸血以外の製剤などに使われています

血漿分画製剤
血漿に含まれる成分を抽出し、血友病、川崎病などの人の治療に使用されています。

輸血用血液製剤
赤血球製剤、血小板製剤、血漿製剤に成分をわけて、患者の症状に応じて、それぞれ使用されています。

固健康推進課 ☎286-3257